

医師国家試験の概要について

1. 試験問題

(1) 出題区分、出題数

- 出題総数は500題。
- 領域別では、必修問題100題、医学総論200題、医学各論200題となっている。
- 問題区分別では、医学総論および医学各論の計400題のうち、一般問題が200題、臨床実地問題が200題となっており、必須問題ではそれぞれ50題である。
- 総数500題のうち、一部が禁忌肢を含む問題となっている。

	一般問題	臨床実地問題
必修問題 100題	50題	50題
医学総論 200題	200題	200題
医学各論 200題		

(2) 出題内容

- 試験問題は、臨床上必要な医学又は公衆衛生に関し、医師として具有すべき知識、技能について広く一般的実力を試し得るものとされている。
- 具体的な出題範囲は、「医師国家試験出題基準（ガイドライン）」（平成17年版）に準拠している。
- 各項目・評価領域毎のおおよその出題数は、試験設計表（ブループリント）に準拠している。

2. 試験時間

- 1日あたり5～6時間、3日間

(例1) 第100回医師国家試験(平成18年)

1日目	9:20～11:50、13:20～14:40、15:20～17:00	(計5時間30分)
2日目	9:20～11:45、13:05～13:55、14:35～17:05	(計5時間45分)
3日目	9:20～11:20、12:40～14:20、15:00～16:40	(計5時間20分)

(例2) 第101回医師国家試験(平成19年)

1日目	9:30～12:00、13:30～15:30、16:10～17:00	(計5時間20分)
2日目	9:35～12:00、13:20～15:00、15:40～17:00	(計5時間25分)
3日目	9:30～12:00、13:25～15:30	(計4時間35分)

3. 合格基準

- 合格基準の設定に関しては、「医師国家試験改善検討委員会報告書」(平成11年4月)で、次の提言がなされており、平成13年から適用。

- ・ 必修問題、一般問題、臨床実地問題の各々の得点と、禁忌肢の選択をもとに合否を決定。
- ・ 合格基準設定の基本的考え方としては、必修問題の合格基準は絶対基準を用いて80%とし、一般問題・臨床実地問題の合格基準は各々平均点と標準偏差とを用いた相対基準を用いる。

- 医師法の規定により、「医道審議会医師分科会」において、合格者の決定方法について審議を行った上で、同分科会の意見を踏まえ厚生労働大臣が合格者を決定している。

(例1) 第100回医師国家試験(平成18年)

一般問題を1問1点、臨床実地問題を1問3点としたとき、

- ① 必修問題については、160点以上
但し、必修問題の一部を採点から除外された受験者にあつては、必修問題の得点について総得点の80%以上とする。
- ② 必修問題を除いた一般問題及び臨床実地問題については、
一般問題は137点以上、臨床実地問題は389点以上
- ③ 禁忌肢問題選択数は、2問以下とする。

(例2) 第101回医師国家試験(平成19年)

一般問題を1問1点、臨床実地問題を1問3点としたとき、

① 必修問題については、160点以上

但し、必修問題の一部を採点から除外された受験者にあつては、必修問題の得点について総得点の80%以上とする。

② 必修問題を除いた一般問題及び臨床実地問題については、

一般問題は122点以上、臨床実地問題は396点以上

③ 禁忌肢問題選択数は、2問以下

とする。

近年の医師国家試験の変遷

回		83～86回	87～90回	91回～94回	95回～98回	99回～100回
年		平成元～4	5～8	9～12	13～16	17～18
臨床医学	必須	5科目 内・外・産婦・小・公衆	医学総論 医学各論 科目区分なし	医学総論 (必修問題含む) 医学各論 科目区分なし	医学総論 (必修問題含む) 医学各論 科目区分なし	医学総論 (必修問題含む) 医学各論 科目区分なし
	選定	2科目(同左) ただし、選定されない科目については基本的な事項を出題する。				
臨床実地試験		120問	120問	120問 (必修問題含む)	250問 (必修問題含む)	250問 (必修問題含む)
計	科目	全科	医学総論・ 医学各論	医学総論・ 医学各論 (必修問題含む)	医学総論・ 医学各論 (必修問題含む)	医学総論・ 医学各論 (必修問題含む)
	設問数	320	320	320	500	500
1回の試験実施日数		筆記2日	筆記2日	筆記2日	筆記3日	筆記3日

医師国家試験出題基準(ガイドライン)と試験設計表(ブループリント)

【必修の基本的事項】

	大項目		中項目
1	患者の人権、医の倫理	約4%	A 医の倫理と医師の義務 B 医師と患者および家族との関係 C 末期患者への対応
2	社会と医療	約2%	A 患者・障害者のもつ心理・社会的問題 B 保健・医療・福祉・介護・教育の制度と連携 C 先端医療技術の社会との調和 D 臨床試験・治験と倫理性
3	診療情報と諸証明書	約2%	A 診療録、医療記録 B 診療に関する諸記録 C 診断書、検案書、証明書
4	人体の構造と機能	約3%	A 胎児期、周産期 B 新生児期 C 小児期 D 思春期、青年期 E 壮年期 F 更年期 G 老年期 H 終末期
5	医療面接	約6%	A 面接のマナー B 医療面接の意義 C 話の進め方 D 面接者の態度 E 感情面への対応 F 病歴 G 患者・家族の考え方・希望 H 患者教育と治療への動機付け
6	主要症候	約15%	A 主要症候のとらえ方 B 周産期の異常を示す症状 C 小児特有の全身症状
7	一般的な身体診察	約13%	A 診察のあり方 B 診察の基本手技 C 診察時の患者の体位 D 全身の診察 E 頭頸部の診察 F 胸部の診察 G 腹部の診察 H 直腸の診察

	大項目		中項目
			I 性器の診察 J 筋骨格系の診察 K 神経系の診察 L 四肢の診察
8	検査の基本	約5%	A 意義と目標 B 種類と特性 C 検査の倫理と安全 D 検体の採取 E 検体の保存 F 一般臨床検査 G 血液学検査 H 生化学検査 I 免疫学検査 J 微生物学検査 K 機能検査 L 画像検査 M 病理検査 N 結果の解釈
9	臨床判断の基本	約4%	A 根拠に基づいた医療<EBM> B 臨床疫学的指標 C 誤差と精度 D 基準値 E 有効性と効率性
10	初期救急	約9%	A 救急患者の診察 B 基本的な救急処置 C 症状・傷病別の初期対応
11	主要疾患・症候群	約10%	A 基本的疾患・症候群 B その他の疾患・症候群の主要徴候とプライマリ・ケア
12	治療の基礎と基本手技	約8%	A 意義と目標 B 種類と特性 C 治療計画 D 治療の場 E 末期患者の治療 F 生活指導 G 日常生活動作<ADL> H 介護 I 在宅医療 J 機器・器材と安全な取扱法 K 消毒・滅菌と院内<病院>感染対策 L 注射 M 静脈路確保

	大項目		中項目
			N 輸液、輸血 O 浸潤麻酔 P 穿刺、切開、ドレナージ Q 創傷の処置・治療 R 気道確保 S 胃洗浄 T 浣腸 U 導尿 V 薬物療法
13	チーム医療	約3%	A 医療機関でのチームワーク B 地域医療でのチームワーク C チームワークの形成 D コンサルテーション E 社会生活
14	生活習慣とリスク	約6%	A 基本概念 B 栄養、食生活 C 運動、身体活動 D 休養、心の健康 E 喫煙 F 飲酒 G 生涯設計
15	心理・社会的側面についての配	約5%	A 医師の心理・社会的側面 B 患者・障害者の心理・社会的側面 C 家族機能 D 行動変容
16	医療の質と安全の確保	約3%	A 医療の質の確保 B 医療事故の防止 C 院内感染対策 D 医療裁判 E 医薬品・医療用具の副作用 F 血液・血液製剤の安全性
17	一般教養的事項	約2%	A 医療を含め人文、社会科学、自然科学、芸術などに関連する一般教養的知識や考え方

【医学総論】

	分 野		大 項 目	
I	保健医療論	約10%	1 健康・疾病・障害の概念と社会環境	約20%
			2 保健・医療・福祉・介護の仕組み	約15%
			3 地域保健、地域医療	約15%
			4 保健・医療・福祉・介護の資源	約15%
			5 社会保障制度と医療経済	約10%
			6 国際保健	約10%
			7 保健・医療・福祉・介護関係法規	約15%
II	予防と健康管理・増進	約13%	1 予防医学と健康保持増進	約12%
			2 人口統計と保健統計	約8%
			3 疫学とその応用	約8%
			4 母子保健	約12%
			5 成人保健と高齢者保健	約8%
			6 精神保健福祉	約8%
			7 感染症対策	約16%
			8 国民栄養と食品保健	約4%
			9 学校保健	約4%
			10 産業保健	約8%
			11 環境保健	約12%
III	人体の正常構造と機能	約10%	1 個体の構造	約10%
			2 皮膚、頭頸部、感覚器、発声器	約10%
			3 呼吸器、胸郭、胸壁	約10%
			4 心臓、脈管	約10%
			5 消化器、腹壁、腹膜	約10%
			6 血液、造血器	約10%
			7 腎、泌尿器、生殖器	約10%
			8 心理、精神、神経、運動器	約10%
			9 内分泌、代謝、栄養	約10%
			10 免疫	約10%
IV	生殖、発生、成長・発達、加齢	約10%	1 妊娠	約15%
			2 分娩	約15%
			3 産褥	約10%
			4 胎児	約10%
			5 新生児、乳児期	約15%
			6 小児期	約15%
			7 思春期、青年期	約10%
			8 加齢、老化	約10%
V	病因、病態生理	約13%	1 疾病と影響因子	約8%

	分野		大項目	
			2 先天異常 3 損傷、炎症 4 感染 5 アレルギー、免疫異常 6 腫瘍 7 循環障害、臓器不全 8 内分泌・代謝・栄養の異常 9 中毒、放射線障害 10 医原病 11 死	約8% 約8% 約8% 約8% 約8% 約8% 約8% 約8% 約8% 約8%
VI	症候	約13%	1 全身症候 2 皮膚、外表 3 頭頸部、感覚器 4 呼吸器、心臓、血管 5 消化器 6 血液、造血器、免疫 7 腎、泌尿器、生殖器 8 心理、精神機能 9 神経、運動器 10 内分泌、代謝、栄養	約16% 約8% 約12% 約12% 約8% 約12% 約8% 約8% 約8% 約8%
VII	診察	約8%	1 2次・3次救急患者の診察 2 高齢者の診察と評価 3 小児の診察 4 胎児・新生児の診察 5 妊・産・褥婦と胎児の診察	約27% 約27% 約20% 約13% 約13%
VIII	検査	約10%	1 検体検査 2 生体機能検査 3 皮膚・感覚器・発声機能検査 4 心理・精神機能検査 5 妊娠・分娩・胎児・新生児の検査 6 画像検査と内視鏡検査	約25% 約15% 約10% 約10% 約10% 約30%
IX	治療	約15%	1 食事・栄養療法 2 薬物療法 3 輸液、輸血、血液浄化 4 手術、周術期の管理、麻酔 5 臓器・組織移植、人工臓器 6 放射線治療 7 インターベンショナルラジオロジー 8 内視鏡治療 9 リハビリテーション 10 2次・3次救急患者の治療 11 その他の治療法	約10% 約13% 約10% 約10% 約7% 約7% 約7% 約7% 約10% 約13% 約7%

【医学各論】

	分野		大項目	
I	先天異常、周産期の異常、成長・発達の異常	約5%	1 妊娠の異常 2 分娩・産褥の異常 3 胎児・新生児の異常 4 性分化・染色体異常、先天異常および成長発育の障害	約20% 約20% 約30% 約30%
II	精神・心身医学的疾患	約5%	1 器質性精神障害および精神作用物質関連障害 2 気分障害および統合失調症、統合失調症型障害、妄想性障害 3 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害 4 生理的障害および身体的要因に関連した障害 5 幼児・小児・青年期の精神・心身医学的疾患および成人の人格並びに行動傷害	約20% 約20% 約20% 約20% 約20%
III	皮膚・頭頸部疾患	約11%	1 炎症性皮膚疾患 2 腫瘍・母斑性皮膚疾患 3 その他の皮膚疾患 4 視機能異常・視神経疾患 5 外眼部・前眼部疾患 6 後眼部疾患 7 外耳・中耳疾患 8 内耳・神経疾患 9 鼻腔・副鼻腔・喉頭疾患 10 咽頭・口腔・唾液腺疾患 11 損傷、奇形	約9% 約9% 約9% 約9% 約9% 約9% 約9% 約9% 約9% 約9%
IV	呼吸器・胸壁・縦隔疾患	約7%	1 感染性呼吸器・胸壁・縦隔疾患 2 気管・気管支・肺の形態異常 3 閉塞性肺疾患 4 びまん性肺疾患 5 腫瘍性呼吸器・胸壁・縦隔疾患 6 乳腺・乳房疾患 7 その他の呼吸器・胸壁・縦隔疾患	約8% 約14% 約21% 約14% 約14% 約8% 約21%
V	心臓・脈管疾患	約10%	1 不整脈 2 心不全 3 先天性心疾患 4 弁膜症 5 虚血性心疾患 6 心筋・心膜疾患、心臓腫瘍、外傷 7 血圧異常 8 脈管疾患	約10% 約10% 約10% 約15% 約20% 約10% 約10% 約15%

	分野		大項目	
VI	消化器・腹壁・腹膜疾患	約13%	1 食道疾患 2 胃・十二指腸疾患 3 小腸・結腸疾患 4 直腸・肛門疾患 5 肝疾患 6 胆道疾患 7 膵疾患 8 横隔膜・胸膜・腹壁疾患 9 急性腹症 10 損傷、異物	約8% 約20% 約12% 約8% 約12% 約8% 約8% 約8% 約8% 約8%
VII	血液・造血器疾患	約5%	1 赤血球系疾患 2 白血球系疾患とその他の骨髄性疾患 3 悪性リンパ腫と類縁疾患 4 出血性疾患と血栓傾向	約30% 約30% 約20% 約20%
VIII	腎・泌尿器・生殖器疾患	約12%	1 糸球体病変 2 血管・尿細管・間質病変 3 腎機能の障害による異常 4 腎・尿路結石と尿路閉塞性疾患 5 腎・尿路・生殖器の炎症 6 腎・尿路・男性生殖器の腫瘍 7 女性生殖器の類腫瘍・腫瘍 8 月経異常、不妊、不育 9 更年期・閉経後障害 10 その他の尿路・生殖器異常	約9% 約9% 約13% 約9% 約9% 約9% 約13% 約13% 約9% 約9%
IX	神経・運動器疾患	約9%	1 脳血管障害 2 脳腫瘍 3 神経変性疾患、脱髄性中枢性神経疾患、末梢神経疾患、筋疾患 4 けいれん性疾患、てんかん、機能性疾患、自律性疾患 5 脊椎・脊髄疾患、骨・関節系統疾患 6 上肢および下肢の運動器疾患、非感染性骨・関節・四肢軟部疾患 7 骨・軟骨腫瘍と類似疾患、損傷 8 脳・脊髄の奇形、神経・皮膚症候群、感染性疾患、小児に特徴的な神経疾患	約11% 約7% 約18% 約12% 約12% 約18% 約12% 約12%
X	内分泌・代謝・栄養疾患	約8%	1 間脳・下垂体疾患 2 甲状腺疾患と副甲状腺<上皮小体疾患> 3 副腎疾患 4 その他の内分泌疾患 5 糖質・脂質・蛋白質・アミノ酸代謝異常 6 その他の代謝異常	約20% 約13% 約13% 約13% 約20% 約20%
XI	アレルギー性疾患、膠原病、免疫病	約5%	1 アレルギー性疾患 2 膠原病と類縁疾患	約30% 約50%

	分 野		大 項 目	
			3 原発性・続発性免疫不全症	約20%
X II	感染性疾患	約8%	1 ウイルス感染症	約20%
			2 クラミジア・マイコプラズマ・リケッチア感染症	約20%
			3 細菌感染症	約27%
			4 抗酸菌<マイコバクテリア>感染症	約20%
			5 その他の感染症・真菌症・原虫症・寄生虫症	約13%
X III	生活環境因子・職業性因子による疾患	約5%	1 食中毒および病害動物による疾患	約20%
			2 アルコールによる障害および薬物依存・中毒	約30%
			3 産業中毒およびその他の職業性疾患	約30%
			4 物理的原因による疾患およびその他の生活環境因子による障害	約20%